

湿地見学会 「秋の湿地を散策しよう！」

愛知教育大学名誉教授の芹澤俊介先生にお越しいただき、湿地見学会を開催しました。湿地の大切さについてご講演をいただき、その後、鯉ヶ廻間上池の湿地を、実際に見学しました。



日時: 令和6年9月22日(日曜日)13時30分～16時00分

場所: 愛・地球博記念公園 地球市民交流センター体験学習室 ⇔ 鯉ヶ廻間上池

講師: 芹澤 俊介先生(愛知教育大学名誉教授)

参加人数: 13人 天気: 雨のち曇り

生物多様性を守るため、身近な一歩を

最初に、長久手市の取組として、未来の子どもたちのために「生態系保護エリア」を定めていることや、市民団体や土地所有者等と連携し、湿地の保全活動を進めていることを紹介しました。また、生物多様性を守り、その恵みを受け継ぐために、私たちにできることとして、「MY 行動宣言」について、紹介し、取組への協力をお願いしました。

(出典: 2030 生物多様性枠組実現日本会議「My 行動宣言」)

Act 1		地元でとれたものを食べ、旬のものを 味わいます 。
Act 2		生の自然を体験し、動物園・植物園などを訪ね、自然や生きものに ふれます 。
Act 3		自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで 伝えます 。
Act 4		生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に 参加します 。
Act 5		エコマークなどが付いた環境に優しい商品を選んで 買います 。

ゆうすい 湧水湿地の特徴

続いて、愛知教育大学名誉教授の芹澤俊介先生から、湿地の特徴について、次のように講演いただきました。

『東海地方の丘陵地には、谷間や斜面に成立する小規模な湧水湿地が多数あり、貧栄養な湿原で狭い面積であること、この地方固有の植物や昆虫が多く見られるといった特徴があります。

湿地は、環境の変化によって比較的短い時間で消失してしまい、これまでは、土砂崩れなどにより土壌が剥ぎ取られ、新たな湿地が生まれることで湿地の植物たちが生き残ってきました。

しかし現在、開発などの影響で湿地全体の数が減り、新たな湿地も生まれにくい状況のなか、その環境と植物たちを守り育てていく必要があります。』

現地見学

講演の後に、実際に、鯉ヶ廻間上池の湿地に見学に行きました。当日は朝から雨模様でしたが、見学に行く頃には、雨が止んでいました。

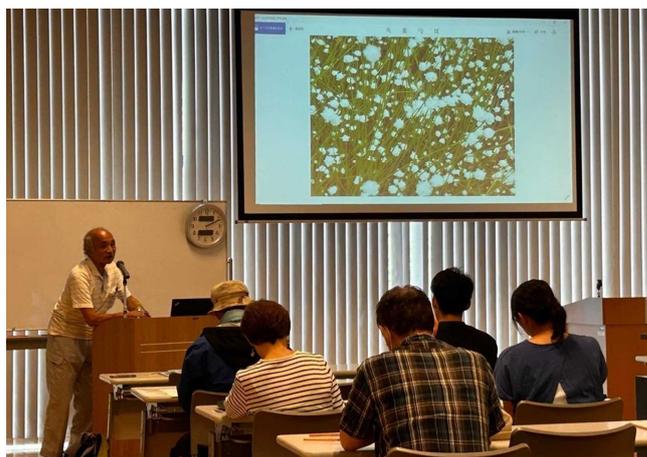
現地では、芹澤先生をはじめ、いつも鯉ヶ廻間上池の湿地の保全活動をされている「長久手湿地保全の会」の方々から、現地の状況を紹介いただきました。

現地では、シラタマホシクサやトウカイコモウセンゴケなど、湿地固有の植物が見られました。

アンケート

今回のイベントを「よかった」と回答した方は、92%でした。参加者全員が湿地について、「概ねわかった」と回答しています。「湿地の保全のためにはむしろ木を切る必要があると知ってとても興味深かった」との感想をいただきました。

また、多くの参加者が、今後の自然環境を守るために、フードロスの削減や地球温暖化の防止などの取り組みにより一層、取り組むと回答しています。



湿地の特徴について、紹介する芹澤先生



現地の植物について、紹介をしていただきました。



市の湿地を代表する植物であるシラタマホシクサ

